

野上房義

未来への伝言

永遠なるそよ風

電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

未来への伝言

永遠なるそよ風

野上房義



未来への伝言◎目次

プロローグ

5

第一章 吾輩は黒猫の「アナログ・ツイッター」である…………… 11

第二章 戦争と靖国神社の関係…………… 45

第一節 総論「日本は侵略国家であったのか」…………… 47

第二節 明治時代に於ける外国との戦争…………… 61

第三節 大正時代の戦争（第一次世界大戦）…………… 83

第四節 昭和の戦争―その1（満州事変から日中戦争へ）…………… 95

第五節 昭和の戦争―その2（太平洋戦争Ⅱ第二次世界大戦）…………… 114

第六節 A級戦犯の合祀に至る経緯…………… 144

第三章 理想的なグローバリゼーションの創造…………… 159

エピローグ

191

プロローグ

永遠の地球と人類の幸福を願って——「スロー・ライフ」の勧め

小泉元首相の「終戦記念日には、必ず靖国神社を参拝する」との発言に、中国と韓国が執拗に反発したのは何故だろう？ という疑問を抱いたのが今回の執筆の動機であった。

明治の新政府は、欧米の支配下（植民地化）にあるアジアよりも、欧米文化を見習う事により、性急な文明開化への路線を選択した。この「脱亜入欧」の思想を基に、1889年（明治22年）に欽定憲法きんていけんぽうを發布し、大日本帝国の近代化の基礎を築いたのである。

〔大日本帝国の命名は、当時の最強国であった「大英帝国」を目指していたのか？〕

日清戦争を始めとし、太平洋戦争の敗北に至る数度にわたる戦争の「原因と結果」を種々調べている中に、領土拡大を目指した大日本帝国の強国意識から自信過剰へと変遷し、更には傲慢無礼ごうまんむれいと嫌われかねない程に増長していく過程が見えてきた。

第1の問題は、A級戦犯の14人を密かに祭神として合祀ごうしした靖国神社に、日本の総理大臣を始め各大臣及び国会議員達が列を連ねて参拝する行事に対し、中国と韓国が激しい反発を表明した理由に何があったのかという事である。多分小泉元首相の言動が、過去の日本の武力支配による屈辱として心に根深く残っていた潜在的反日感情に火を付けたのであろうか。彼らのトラウマとは一体どんな事だったのだろうかという疑問であった。

国家のために戦没された英霊（靖国の祭神）に対し、日本人が参拝されるのは至極当然の事で、日本国民の自由意思であり内政干渉のようにさえ思える。

しかし問題は、① 14人のA級戦犯が秘密裏に合祀された神社を、

② 終戦記念日に、

③ 一国の首相が公式参拝する、

という三つに要約される点にあったのであろうと考えた。

(注) 合祀された14人中、処刑された者7人（陸軍人6人・官僚1人）、公判中や服役中に死亡した者7人（陸軍人2人・海軍人1人・官僚4人）。

第2の問題は、① 明治期の日清戦争及び日露戦争に於ける日本の中国並びに韓国への領土侵犯に対する反発？

② 大正期に於ける第一次世界大戦中の「対華21箇条要求」の不当性に対する抗議？

③ 満州事変から日中戦争に至る日本の侵略的武力行使への怨念や韓国人の強制労働等に対する根深い憎しみがトラウマとなって21世紀に甦よみがえったのだろうと思われる。

第3の問題は、この執筆中に顕在化してきたグローバル化に当たり、

① 郵政民営化改革の必要性・方向性に誤謬ごびやうはなかったか。

② 労働者派遣法の改正（企業にとっての規制緩和）はあまりに軽率ではなかったか？

③ 国債の膨脹抑止とはいえ、地方交付税や補助金制度の抑制・削減は性急過ぎたのではないか？

急速なグローバル化に慌てたのか、それともアメリカの要請に従順に応じたのか、21世紀初頭の小泉政権は「小泉―竹中改革」路線を軸として半ば強引な手法を用いて強行した

という感じであった。郵政改革を始め一連の構造改革に反対する者は「反対勢力と見做す」という小泉首相（当時）の檄げきにより、多くの自民党の反対党員は撤回し賛成に回り、または選挙後「詫わび状」を書いて復党した党員もいた。中には最後まで反対を貫き、離党・分党した議員も何人かおられたようである。民主主義政治の中で、ここまで強引に断行したということは、親米派の「小泉―竹中」政権の裏にはアメリカの影、いや強引な要請が有ったものと思わざるを得ない。

「先進諸国―vs―発展途上国（プラス貧困国）」という構図が顕在化して、アメリカの「市場原理」金融・経済の自由化「国益競争」へと激しさを増し、日本のアメリカ追従政治の影響を受けざるを得なくなってきた。「小泉―竹中改革」にはアメリカ追従に偏重し過ぎたとの懸念が見られた。

「衣食（住）足りて礼節を知る」という諺ことわざがあるが、人間を人間たらしめるものは「生活の余剰」にある。「生活の余剰」が人間の尊厳や知的活動を育み、創造（想像）的な趣味活動（芸術・文芸・スポーツ等）を生むのである。しかし「生活の過剰」は時として贅ぜいたく沢を生み、自らの天寿を全う出来ない場合もあることを肝に銘めいずべきである。

孟子曰く「天の時は地の利に如しかず、地の利は人の和に如しかず」と。究極的には「人心

の和合」に優るものはないと信じている。どんなにお金を溜めても、「衣食住」に必要な物品を生産する人がいなければ、大資本と雖も「札束を食べ、札束に包まって、雨露を凌ぐ」訳にはいかない。嘗て「狭い日本、そんなに急いで何処へ行く」という標語があった事を思い出した。今や乗り物（航空機・自動車・特急列車）、ITの発達などにより、この一世紀の間に地球も大分狭くなった。「こんなに狭い地球、そんなに急いで何処へ行く」と問いたい。

形ある物は何れは必ず壊れる。生命あるものは必ず死期が来る。地球も人類もいずれは消滅するであろうが、絶対に人類自らがその生存を縮める愚行をしてはならない。

これが今回の私のテーマである。

敢えて「未来への伝言」と主題を提示したのは、「未来に生きる子孫」に、地球と人類の運命を託したためである。

故に皆様方のお子様やお孫様に読んで欲しいと願いつつ、ペンを走らせているのです。

先進諸国に「追いつけ」から「追い越せ」へと、目下経済成長の著しい発展途上国の意である。この経済成長に使用される化石燃料の垂れ流しにより、地球や人の心身を絶対に犠牲にしてはならない事を強調しておきたい。

第一章

吾輩は黒猫の「アナログ・ツイッター」である

——愚者にも千慮に一得あり——

吾輩は黒猫である。名はクロ。出生地・年齢ともに不詳。真つ黒一色なるが故に、そのものズバリの名前である。気付いた時には飼い主であるご主人様から「クロ、クロ」と呼ばれていた。逆境に強い吾輩ながら、さすがに「味も素っ気もない名前だなあ」と、ご主人様の愛情の一カケラも感じられないこの名前を悲しくも恨めしく感じた。せめて「クロチャン！」ぐらいの思い遣りが欲しかったなあ。

吾輩の大嫌いな「黒犬」と書いて「黙る」と読む。ならば吾輩は自らを「黒猫」と書いて「ツイッター」と読ませたい。従って大いに吠つひやきまくるつもりである。

昔「おさむチャン」とかいう可愛い幼児歌手の「黒猫のタンゴ」とかいう可愛い歌が流行したそうだが、吾輩の歌声などは「ゴロニャン」だけの悪声だから、「タンゴ」どころか「ダンゴ（団子）」にもならない。ただひたすら自己嫌悪さいいなに苛まされ、不平不満を「アナログ（活字）・ツイッター」として捲まくし立て、せめてストレスを発散したいと思う次第である。

人間の年齢で言えば、「血気盛んな……」と言いたいところだが、人生、いや猫生の下り坂に差し掛かった中高年ぐらいかなあ、と密かに思っていたところだ。自分でも何歳か分らないので、あくまでも自分勝手な想像を加味して言えば、アラフォーを越えたアラ

ファイトでも言っておこうかな。

最近の人間界では、女性の未婚限界を「アラウンド・フォーティ」略してアラフォー、男性の未婚限界を「アラウンド・ファイフティ」略してアラファイフ等と洒落た呼び方をし、痩せ我慢をする事でせめてもの慰めになっているらしい。

吾輩どもには生憎と戸籍などという面倒くさい記録書類は無いから、統計上の平均寿命は分からない。吾輩の飼い主である「ご主人様」などの人間界では、男性の平均寿命は約80歳だとか。それに比べて女性は約87歳を超えたとか。人の世も猫の世も雌（おつと失礼！）女性の方が生命力が強いようだ。やはり「子を産み育てる」という天与の使命があるから、しょうがないか。

吾輩ども雄猫は子孫を増やす事には大いに貢献（？）しているが、子育てには一切関与していない。それどころか吾輩の子供達が何処で何をしているか、我が子の顔さえ知らないのだから無責任極まりない生物である。でも吾輩には「雄がいるからこそ猫族の繁栄は守られているのだ」という自負心は持っている積もりだ。

人間の平均寿命から算出してみると、吾輩ども猫族の寿命も、昭和の「あの戦前・戦後の暗い時代」よりは良くなったらしく、15〜16歳位まで延命しているらしい。人間に換算

したらほぼ人間の平均寿命に近づいているのではないかと信じている。

最近では人間どもの一部には「癒し系アイドル」等と称し、一部の猫どもにシヤレた衣服を着せたり、豪華な餌（いや御馳走と言うべきかな）を与えて、ブクブクと太った肥満猫も多く見られるような世の中になってきた。こんな傾向は外見上や健康上からみて果たして「喜ぶべきか、悲しむべきか、そこが問題だ」などと気取って見たところで、生活習慣病の一種メタボリック・シンドロームに冒され、寿命を縮めるのがオチであろう。

ところで人間界では、論語から引用して「四十にして惑わず」から、40歳を「不惑」と言うそうだ。聖人と崇められた孔子様だからこそ「不惑」と言えるのであって、現在の人間社会にとつては殆ど通用しない。「人生僅か50年」と言われた時代から、「還暦（60歳）未だ青春期」などと嘯く輩も出てきた。あの元首相の名言「人生いろいろ、会社もいろいろ、議員もいろいろ……」を振って言えば、「猫生いろいろ、毛色もいろいろ、寿命もいろいろ……」とシヤれてみたところで、議員族みたいな優雅な生活は望めそうにもない。政治家の話題が出たついでだが、最近の議員様には世襲議員が「雨後の筍」の如く増殖した揚げ句に「温室育ちのモヤシっ子」みたいな「ひ弱な」首相が続いた。82代首相の橋本龍太郎（2世代）から小渕恵三（2世代）↓森喜朗（地方政治家からの世襲・7世代）↓

小泉純一郎（3世代）↓安倍晋三（3世代）↓福田康夫（2世代）↓麻生太郎（5世代）
↓鳩山由紀夫（4世代）と世襲議員の首相が8代も続いたわけである。それぞれ性格は、
気弱・ひ弱・我が儘・お利口・やんちゃ・強気……等々タイプは異なるがお坊ちゃん育ち
（富裕な品の良さ）という共通点を持ち合わせている。ちょうど土地バブルが弾けた不況
期に首相になられた点まで共通しており、日本を不況から救出させられなかった点までも
共通している。「無策の10年」とか「失政の20年」とかと言われた時代である。この長い
不況から脱出する前に「東日本大震災+原発の大惨事」という国難的試練に見舞われ、日
本の沈没さえ危ぶまれる状況に落ちてしまった事に、日本に住む吾輩としても他人事では
済まされない心境に至り、「吾輩に出来る事は何か」ナンチャッテ、目下思案中である。

人間関係の複雑さ煩雑さによって、吾輩ども猫社会の制度も複雑化し、「動物愛護法」
等に自由を奪われ、日々是れ欲望とストレスのカタマリに苛まされ、格差社会の狭間で悪
戦苦闘しながら呻吟し、辛うじて生き長らえている次第である。牛肉を常食とする「肉食
人種」と称する「シーシェパード（日本の捕鯨を批難する急迫的動物愛護団体）の人達」
から見ると、クジラ肉を食する日本人を「動物愛護心のカケラもない野蛮人」と非難する

人々もいるらしい。彼らの言い分によれば「牛・豚は牧場で養殖できるが、あの大きなクジラは養殖できない。しかも牛・豚は一瞬にして処分できるが、クジラには2発・3発と鋸のりを打ち込み、長時間にわたりもがき苦しませ、挙げ句の果てに死に至らしめる。同じ哺乳動物として、死に至る過程があまりに残酷すぎる」という。クジラ肉を食する文化を持つ国民（人種）にとっては「クジラが増える事は魚資源の確保に支障をきたし、よって捕鯨は『魚資源の確保』と『食用肉の供給』として一石二鳥の合理性がある」という。吾輩には捕鯨反対の人々の気持ちも分かるが、鯨肉嗜好者の気持ちも分かるような気もする。例えば食糧難の時代が来て、餓死寸前になっても「人とクジラ（イルカ）」は口にしないと言い切れるだろうか。いつでも吾輩は疑問のまま曖昧あいまいにして結論を出さない。判断は人それぞれに任せるのが吾輩流の処世術なのである。

吾輩ども猫族の寿命も人間の寿命同様に「ストレスと栄養過多」によるメタボリックとやらで、短命の傾向にあるのではなからうかと心配している。こんな地獄のような浮世にしがみついて生きている人間どもは、何を生き甲斐がいとし、何が楽しみで生きているんだらう。そんな人間に比べたら吾輩などは未だ「呑気のんきな父さんにもなれず、認知症になっても

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

著者プロフィール

野上 房義 (のがみ ふさよし)

昭和20年9月、父親の出身地・現在の茨城県常陸大宮市へ帰郷し、太田中学校へ転校。

昭和25年3月、茨城県立太田第一高等学校卒業。同年4月、茨城大学入学。

昭和29年3月、茨城大学卒業後、茨城県内の公立中学校教師となる。平成元年3月、退職し現在に至る。

未来への伝言 永遠なるそよ風

2011年12月15日 電子版発行

著者 野上 房義

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Fusayoshi Nogami 2011 Coded in Japan

ISBN978-4-286-11103-2

(紙の書籍をお求めの場合には、お近くの書店にてお尋ねいただくか、文芸社ホームページ

<http://www.bungeisha.co.jp> をご参照ください。)

JASRAC 出1111879-101

新 11.11.25 Ladybird